

「節田小学校の節田マンカイ」 伝承活動の取組

1 学校名

奄美市立節田小学校

2 学年・人数

小学1年生から6年生（計46人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時（場所）

ア 10月中旬から11月初めの朝の活動（節田タイム）で節田マンカイの練習を行う。

イ 地域が育む「かごしまの教育」県民週間期間中に保存会の方々と交流をする。

（節田小多目的ホール）

ウ 11月から毎月第1・第3金曜日夜8時から行われる節田マンカイ保存会主催による公民館講座の練習へ参加する。（節田生活館）

(2) 発表の日時（場所）

ア 1月3日、奄美パークで行われる初春のイベントで節田マンカイの発表に高学年が参加する。

イ 旧暦正月に節田生活館で行われる本来の節田マンカイの伝統行事に参加する。

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

節田マンカイ（せったまんかい）

(2) 由来

奄美市笠利町節田地区の伝統行事で旧正月の唄掛け遊びである。「マンカイ」とは「手踊り」のことと考えられる。または、手の振りからして「手招き」の意味もあるようなので「手招き踊り」とも言える。八月踊りが秋の野外における集団舞踊だとすれば、節田マンカイは、冬の室内における集団舞踊と言える。新年を迎えて一同に集まり、唄や三味線が始まり、やがては舞い踊り出す自然の情を組織化したのが節田マンカイ（正月マンカイ）である。1930年頃までは、奄美各地で見られたが、現在は節田集落にだけ残されている。

(3) 構成等

参加者は、男女向き合って2列に座り、三味線、太鼓（チヂン）に合わせて八月踊りの唄を歌いながら、両手又は片手を軽く叩いたり、手舞をしたり、あるいは胸のあたりや膝の上を叩いたりする。

5 保存会や地域との連携の具体

節田マンカイは昭和49年9月1日に旧笠利町の無形文化財に指定されたのをきっかけに保存会が発足した。平成20年4月22日に県の無形文化財にも指定されている。

子どもたちも踊りの列に加わり、見よう見まねで動作を繰り返す。手の動作には福を招く意味もあり、昔は男女の出会いの場で、家々を回って夜通し踊っていたという。今では、子どもたちもこの行事に参加するので、少しでも早く覚えさせたいという気持ちから学校でも練習をするようになった。学校では10月中旬から11月初めの朝の活動でビデオを見ながら、練習を行い、地域が育む「かごしまの教育」県民週間期間中には、保存会の方々に学校にきていただき一緒に踊りの練習をして交流を深めている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら節田マンカイの継承していくために、学校の職員2名を係として位置づけ、ビデオの視聴や活動の様子を撮影したり、保存会の方々との連絡・調整を行ったりしている。また、朝の活動に節田タイムという時間を15分間設定し、奄美に残るいろいろな伝統芸能の練習をして、継承に努めている。

7 取組の様子



節田タイムスでの練習



地域の方々との交流



旧正月の節田生活館での節田マンカイ

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- ・ 最初は、ビデオを見たり、地域の人に教えてもらったりしながら練習をして、友達と一緒に踊るのは楽しい。本番の旧正月の日には、たくさんの人に見られて緊張するけど、上手に出来た時はみんなからほめられるのでうれしい。(児童)
- ・ 節田マンカイの唄や踊りを練習するにつれ、子どもたちだけでなく職員も島唄や三味線や八月踊り等、郷土の文化に対する興味関心も高まっていく。保存会の方々の「節田マンカイを大切にし、継承していこう。」という想いが練習をとおして伝わってくるようだ。(教職員)
- ・ 子どもたちがアマンデー太鼓や八月踊り、六調、節田マンカイなどのふるさとの伝統芸能を学習し、体験していくことはすばらしいことである。

活動を通して、称賛や励ましの言葉をいただくことにより、子どもたちはふるさを愛し、誇りに思う節田校区の一員としての自覚が育ちつつある。(保護者)

- ・ 節田マンカイの活動をすることにより、子どもたちは、地域の高齢者や青壮年団や女性団体のの方々との交流が生まれる。子どもたちが踊りは早く覚えてくれるので、唄は歌えなくても、できるだけ多くの子どもたちに当日の行事への参加を呼びかけるとともに、今後も継承活動を引き続き学校と連携して行っていきたい。(保存会)